

## 文化的景観を支える地域の信仰

去る11月23日、蘭島（あらぎ島）周辺の二つ地区において会式が行われました。

一つは三田区の金比羅権現社こんびらごんげんしゃです。約10日前から餅米の準備や境内の清掃、餅つき、職建て等の準備が行われます。当日は、職を先頭に、餅を入れたたらいの担ぎ手、役員の皆様が連なり、三田区活性化センターから金比羅権現社までお渡りが行われます。その後、祈禱、本引きの後、餅まきが行われました。



金比羅社お渡り



三田金比羅社で祈禱

もう一つは、西原地区の春日神社・愛宕神社です。地区の方々が供物を持ち寄り、ご祈禱の後、餅やお菓子などが参詣者にまかれました。

これら2つの行事は、稲の収穫を神に感謝し、無病息災や子孫繁栄を祈る「亥の子」と呼ばれる農耕行事です。このような年中行事は、先人達の祈りの形として今に受け継がれてきたものであり、心の支えや地域の絆を保つものとして大きな役割を果たしてきました。蘭島周辺の地域では、地域の方々が信仰されている様々な信仰物が数多くあり、このような会式や年中行事が今も継続されています。

文化的景観を保全することは、目に見える風景を対象としているだけではなく、目には見えない信仰や技術、伝承などを含めて次世代へ継承していくことです。文化的景観保全の主役である住民の皆様や自治会組織を始めとした地域共同体の絆を保つ信仰物を適切に保全活用することは、文化的景観の保全を行う上で重要なことです。



春日神社で祈禱